

ご あ い さ つ

愛知県高等学校視聴覚教育研究協議会長

愛 知 県 立 豊 橋 工 科 高 等 学 校 長

高 木 永 幸

会員の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素から本研究協議会の活動に格別の御支援、御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、豊橋工科高校は、令和7年度から夜間中学校（県立とよはし中学校）を開校することから生徒募集を行ったところ、海外にルーツを持つ若い人から多くの応募がありました。東三河地区は、海外にルーツを持つ人たちが多い地区ですが、若い人たちのなかには母国で義務教育を終了していても、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止処置による休校のため1年以上学校に通うことができず、十分な教育を受けることできないまま卒業、来日し、日本での生活に不安を抱えている実態がありました。

日本においては、いち早くスマートフォンやタブレットを活用した学習の機会を確保し、先生方におかれましても奔走しつつも休校や学級閉鎖の難局を乗り切ってきたことと思います。そして、ポストコロナ期に経験した新たな学びの在り方は、アフターコロナ時代になり「G I G Aスクール構想」を中軸とした教育分野におけるD X（以下、教育D X）へと進化し、I C Tの持つ大きな可能性に一層の期待が寄せられているところです。

令和6年度の愛知県高等学校視聴覚教育研究協議会においても、それらを踏まえ、I C Tの効果的な活用シーンを見据えた地区別研修会の実施やNHK f o r S c h o o lなどの視聴覚教材の活用方法について講習会を実施してまいりました。今後も、教育D X化に役立つアプリやツールの紹介・体験を通じ、生徒の主体的・対話的な深い学びにつながる機会となることが望まれるところです。

また、本研究協議会のもう一つの事業である放送コンテストにおいては、本年度も多く生徒が参加いたしました。コンテストでは、質の高い作品や技術が披露され、先生方の指導や先輩から後輩への指導の成果を垣間見ることができました。今後も生徒の挑戦の場として、本コンテストが盛況に開催されることを期待しています。

今後とも本研究協議会に御支援賜りますようお願い申し上げます。